

女性のエンパワーメントとジェンダー平等—バングラデシュにおける施策の中核—

バブル・ラフマン (バングラデシュ)

バングラデシュの女性は、生活のあらゆる面で障壁に直面し、不利な立場に置かれています。例えば、医療サービス、経済的機会、政治参加、財産管理などの面においてそれが顕著です。バングラデシュでは、女性の参画の拡大、ジェンダー不平等の解消、社会全体で女性・少女をエンパワーすることの利点について認識を醸成することなどを目的とした、様々なプログラムが実施されています。そして、それらのプログラムの中核をなすのが「女性のエンパワーメント」という概念です。

ジェンダーに基づく暴力の問題に取り組むため、支援団体はバングラデシュ政府と連携して 2010 年に成立した DV 防止法の実施を推進しています。また、同法やその他の人権に関する法律が適切に執行されるように、人権擁護活動家（その半数は女性）を対象とした研修などを行っています。さらに、このような支援団体はソーシャルワーカー、医師、宗教指導者、教師、学生などで構成される草の根の社会保護グループに対する援助も行っています。その目的は、社会保護グループが地域社会における DV を監視し、被害者が家庭内のもめごとの解決のために法的手段に訴えられるよう手助けするためです。

女性があらゆるセクターにおいて経済活動に本格的に参画できるよう、女性のエンパワーメントを推進することは、経済を強化し、開発や持続可能性に関する国際的な目標を達成し、女性と男性ひいては地域社会全体の生活の質を高めるために不可欠です。

国の発展にとって、女性と子どもの地位向上は必須条件です。そのため、国の包括的な開発プロセスにおいて女性と子どもの主流化を図ることにより、そのエンパワーメントを推進し、人権を確立するためのプログラムが実施されています。その目的は、エンパワーメントの確実な実施、暴力の排除、人身売買の防止、職場の安全確保、女性の社会経済活動への参画促進などです。

グローバル・ネットワークを通じて、ガバナンスに関するあらゆる制度に女性の生の声が確実に反映されるよう働きかける必要があります。そうすることで、女性は男性と肩を並べて公開討論や政策決定に参加し、自分たちの家族や国の将来を方向づけるような決定にも影響を及ぼすことができるのです。

ジェンダー平等を通じて女性のエンパワーメントを実現していくことは、それ自体が重要なことです。というのも、自らが人生の選択をし、絶対的貧困に陥ることなく暮らしていくことこそ、男女を問わず全ての人が等しく享受すべき基本的人権だからです。

バングラデシュでは、この 20 年間で女兒の超過死亡率が大幅に低下しています。これには、上水へのアクセスや衛生・ごみ処理サービスを改善し、下痢や感染症の発生が抑えられたことが背景にあります。さらに、妊産婦に対する保健サービスを改善することで、妊産婦死亡率の削減も達成されています。

また、貧困削減を目指して実施されているマイクロクレジット（小口融資）も功を奏しています。マイクロクレジットとは、農村部の極貧層の女性が無担保で融資を受けられる支援制度です。これを利用することで零細自営業を起業することが可能となり、女性の自立に繋がっています。現在、マイクロクレジットは 64 の県の 473 のウポジラ（郡）で実施されています。近年、携帯電話やインターネットの普及により、より多くの女性にとって情報へのアクセスが可能となっています。また、

マイクロクレジットを利用することで女性が経済的に自立できるようになり、家計も安定するようになりました。さらに、女性が好きな分野においてキャリアを形成する上での制約も、もはや無くなりつつあります。女性が専門的な職業に就くことは、エンパワーメントの実現に繋がりますが、今ではその可能性が無限になったと言えるでしょう。

これまでは男性だけの領域とされてきた専門職にも、女性が進出しています。今日では、女性も科学者やパイロットといった職業で優れた才能を発揮しています。社会秩序の変化に伴い、男性による偏見も解消され、女性が職場に適応しやすくなっています。

現在バングラデシュでは、女性のエンパワーメントとジェンダー平等は人権の問題として注目されているだけでなく、ミレニアム開発目標(MDGs)および持続可能な開発目標(SDGs)を達成する手段としても重点的な取り組みが行われています。

一方では、バングラデシュにおいて社会の変化に触発される形で女性のエンパワーメントが推進されているにもかかわらず、女性に対する暴力が12~16%増加しているという報告があります。女性に対する暴力は、単にジェンダーに関する問題にとどまらず、女性の名誉を傷つける人権侵害にあたる行為です。

しかし他方では、この国の最辺境の地にまで近代的な設備の導入が進められ、政府や民間セクターによって女性に対する機会も与えられています。このような状況を背景に、女性のエンパワーメントは時間と共に拡大しつつあります。

喜ばしいことに、バングラデシュにおける女性のエンパワーメントに向けた取り組みが国際的に評価されつつあります。シェイク・ハシナ首相が、女性のエンパワーメント推進に注力し、成果を上げていることが認められ、フランスのパリ第9(ドフィージュ)大学からゴールド・メダルを授与されたのです。また、乳幼児死亡率の削減における優れた功績が評価され、ミレニアム開発目標賞も受賞しました。さらに首相は、情報通信技術(ICT)を活用した女性と子どもの健康増進政策が評価され、国連の南南協力賞も受賞しています。

女性が首相としてリーダーシップを発揮しているわが国では、あらゆるレベルにおいても同じような状況を達成することが重要となります。そのためにも、様々なプロジェクトやプログラムの立案に際してジェンダー主流化を実践し、十分な予算配分を行う必要があるのです。



地方政府のプロジェクトにより自転車の支給を受ける女性徒たち



高等学校検定試験の結果に歓喜する女性徒たち